

表19 後方医療機関の有無

	n	%	
ある	10	83.3	
なし	2	16.7	

表20 後方医療機関までの距離、所要時間

	n	平均	SD
距離(km)	11	16.1	7.0
所要時間(分)	12	26.0	21.8

表21 研修医受け入れ状況

	n	平均	SD
平成16年度受け入れ人数	—	—	—
平成17年度受け入れ人数	4	2.8	1.5
研修医1人あたりの日数	2	21.0	9.9

表22 今後、研究医受け入れ意志

	n	%	
受け入れたい	5	55.6	
受け入れたくない	4	44.4	

地域医療機関勤務医調査

表1 対象者属性

	n	%	
職位			
院長	8	25.8	
科長	12	38.7	
医員	11	35.5	
性別			
男	33	89.2	
女	4	10.8	
専門医資格			
有り	25	69.4	
なし	11	30.6	
免許			
医師	35	97.2	
歯科医師	1	2.8	
出身地			
県内	21	58.3	
その他の東北	9	25.0	
それ以外	6	16.7	
出身大学			
山大	18	50.0	
その他東北の大学	3	8.3	
自治医大	9	25.0	
その他	6	16.7	
	\bar{n}	平均	SD
年齢	36	42.6	9.5
現在職場勤務年数	34	8.1	8.5
医師経験年数	36	17.3	9.1

表2 担当診療科(複数)

	n	%
内科	24	63.2
外科	9	23.7
消化器科	6	15.8
整形外科	5	13.2
小児科	3	7.9
その他	3	7.9
皮膚科	2	5.3
泌尿器	1	2.6
循環器	1	2.6
産婦人科	1	2.6
歯科	1	2.6

表3 勤務形態

	n	%
専任	29	78.4
兼任	8	21.6

表4 1週間の労働時間

	n	%
40時間以下	14	37.8
41時間以上45時間以下	8	21.6
46時間以上50時間以下	4	10.8
51時間以上55時間以下	6	16.2
56時間以上60時間以下	2	5.4
61時間以上	3	8.1

表5 勤務体制

	n	平均	SD
オンコール出勤回数/週	36	1.4	2.0
宿直回/月	36	3.1	2.7
日直回/月	33	0.7	0.9

表6 休日

	n	%
8日以上	7	24.1
6日以上8日未満	6	20.7
4日以上6日未満	10	34.5
2日以上4日未満	2	6.9
1日	0	0.0
全くないときもある	4	13.8

表7 通勤

	n	平均	SD
距離(km)	32	16.5	19.4
時間(分)	37	21.8	23.1

表8 不都合なこと(複数)

	n	%
勤務場所への移動	14	36.8
医師としてのキャリアアップ	13	34.2
時間外診療	7	18.4
診療所の管理・運営	7	18.4
地域住民との関係	4	10.5
子どもの教育	5	13.2
家族の介護	1	2.6
その他	2	5.3

表9 家族状況

	n	%
婚姻		
既婚	28	75.7
独身	9	24.3
子どもの有無		
あり	25	89.3
なし	3	10.7
世帯形態		
単身	10	30.3
家族と同居	20	60.6
家族と別居	3	9.1

表10 子どもの年齢

	n	平均	SD
年少子ども年齢	22	11.0	6.6
年長子ども年齢	26	13.9	8.8

表11年収

	n	%
500万円未満	1	2.9
500以上800万円未満	0	0.0
800以上1000万円未満	4	11.4
1000以上1300万円未満	5	14.3
1300以上1500万円未満	5	14.3
1500以上2000万円未満	12	34.3
2000万円以上	8	22.9

表12現在職場に勤務を始めた理由(複数回答)

n=38		
	n	%
自治医大の義務年限内	5	13.2
大学医局派遣	18	47.4
大学時代の経験	2	5.3
近隣に知人が住んでいる	5	13.2
親、親戚を継いで	1	2.6
へき地医療に関心がある	9	23.7
労働環境がよい	4	10.5
居住環境がよい	4	10.5
報酬よい	3	7.9
本やテレビからの影響	0	0.0
勤務病院からの派遣	2	5.3
その他	4	10.5

表13現在職場に勤務を始めた最大理由

	n	%
自治医大の義務年限内	5	16.1
大学医局派遣	14	45.2
大学時代の経験	2	6.5
近隣に知人が住んでいる	2	6.5
親、親戚を継いで	1	3.2
へき地医療に関心がある	3	9.7
労働環境がよい	1	3.2
居住環境がよい	0	0.0
報酬よい	0	0.0
本やテレビからの影響	0	0.0
勤務病院からの派遣	2	6.5
その他	1	3.2

表14現在職場に勤務している理由(複数回答)

n=38		
	n	%
やりがい	11	28.9
労働環境がよい	5	13.2
居住環境がよい	4	10.5
地域住民から必要とされている	10	26.3
自治医大の義務年限	5	13.2
大学医局からの派遣	12	31.6
近隣に知人がいる	5	13.2
報酬がよい	9	23.7
後任がいない	7	18.4
その他	5	13.2

表15 現在職場に勤務している最大理由

	n	%
やりがい	5	17.9
労働環境がよい	0	0.0
居住環境がよい	1	3.6
地域住民から必要とされている	6	21.4
自治医大の義務年限	4	14.3
大学医局からの派遣	9	32.1
近隣に知人がいる	1	3.6
報酬がよい	1	3.6
後任がいない	1	3.6

表16 学生でのへき地医療経験(複数)

n=38		
	n	%
へき地医療の授業があった	6	15.8
へき地医療の実習があった	8	21.1
課外活動でへき地に行った	11	28.9

表17 学生のへき地経験で関心もてたか

	n	%
持てた	12	80.0
持てなかった	3	20.0

表18 医師になったからのへき地医療経験(複数) n=38

	n	%
臨床研修プログラム	3	7.9
大学医局からの派遣	14	36.8
自らの希望	1	2.6
教育、研究のために必要だった	0	0.0
その他	5	13.2

表19 医師のへき地経験で関心もてたか

	n	%
持てた	10	50.0
持てなかった	10	50.0

表20 現在職場での勤務継続意志

	n	%
できるだけ長く勤務したい	12	35.3
任期が終了するまで	14	41.2
後任が見つかるまで	1	2.9
早期に退職したい	1	2.9
退任後、再び赴任したい	0	0.0
その他	6	17.6

表21 現在職場の勤務期間予定

	n	%
1年未満	3	8.8
1年以上3年未満	11	32.4
3年以上5年未満	1	2.9
5年以上	11	32.4
その他	8	23.5

表22 行政の支援協力への満足度

	n	%
十分満足	0	0.0
満足	8	22.9
少し満足	7	20.0
あまり満足してない	6	17.1
不満	14	40.0

表23 大学その他機関の支援への満足度

	n	%
十分満足	0	0.0
満足	7	20.0
少し満足	6	17.1
あまり満足してない	8	22.9
不満	14	40.0

表24 山形大学蔵王会の活動への満足度

	n	%
十分満足	0	0.0
満足	4	11.1
少し満足	2	5.6
あまり満足してない	5	13.9
不満	3	8.3
協議会を知らない	22	61.1

表25 山形大学生涯教育セミナーの参加

	n	%
ある	6	16.2
ない	18	48.6
知らない	13	35.1

表26 山形大学医学部広報誌を知っているか

	n	%
知っている	2	5.4
読んだことがある	6	16.2
知らない	29	78.4

表28 所在地域の保健福祉行政担当者との意見交換

	n	%
よくある	5	13.9
時々	4	11.1
ほとんどない	12	33.3
ない	15	41.7

表29 所在地域の保健福祉業務への関与(複数) n=38

	n	%
基本健康診査・がん検診	20	52.6
乳幼児診査	5	13.2
定期的開催される健康相談	10	26.3
予防接種	19	50.0
学校医・産業医	14	36.8
老人福祉施設等の管理	16	42.1
在宅医療	22	57.9
介護保険業務	15	39.5
その他	3	7.9

表30 在宅医療

	n	平均	SD
訪問頻度(回/週)	22	1.0	0.5
訪問件数(件/週)	21	7.8	5.4
訪問所要時間(時間/週)	21	2.5	1.3
難病人数	18	0.6	0.5
ターミナル人数	19	0.8	2.3
看護師同伴		n	%
あり	22	100.0	
なし	0	0.0	

表31 遠隔医療

	n	%
利用している	1	3.1
利用したことない	22	68.8
利用できるとよい	9	28.1

表32 短期出張中の診療(複数) n=38

	n	%
休診	11	28.9
代診医の要請	8	21.1
診療日の変更	10	26.3
その他	8	21.1

表33 勤務継続に必要なこと(複数) n=38

	n	%
生活環境の向上	13	34.2
子どもの教育の充実	8	21.1
診療支援体制強化	29	76.3
医師としての研修の充実	19	50.0
報酬	18	47.4
地域医療支援機構の協力	15	39.5
地元行政の協力	25	65.8
地域住民の理解と協力	20	52.6
最新医療機器の整備	9	23.7
その他	4	10.5

表34 勤務継続に最も必要なこと

	n	%
生活環境の向上	0	0.0
子どもの教育の充実	1	3.7
診療支援体制強化	11	40.7
医師としての研修の充実	3	11.1
報酬	3	11.1
地域医療支援機構の協力	0	0.0
地元行政の協力	6	22.2
地域住民の理解と協力	1	3.7
最新医療機器の整備	0	0.0
その他	2	7.4

都市部医療機関勤務医調査

表1 対象者属性

	n	%	
職位			
院長	7	3.0	
科長	59	25.7	
医員	134	58.3	
研修医	30	13.0	
性別			
男	216	83.1	
女	44	16.9	
専門医資格			
有り	160	74.4	
なし	65	30.2	
免許			
医師	255	96.2	
歯科医師	10	3.8	
出身地			
県内	113	46.3	
その他の東北	51	20.9	
それ以外	80	32.8	
出身大学			
山大	149	62.3	
その他東北の大学	42	17.6	
自治医大	27	11.3	
その他	21	8.8	
	n	平均	SD
年齢	240	39.0	10.3
現在職場勤務年数	253	6.0	6.5
医師経験年数	253	14.1	10.0

表2 担当診療科(複数)

	n	%
内科	60	22.5
外科	27	10.1
小児科	22	8.2
整形外科	22	8.2
皮膚科	8	3.0
耳鼻咽喉科	5	1.9
眼科	7	2.6
泌尿器	8	3.0
循環器	14	5.2
消化器科	11	4.1
胃腸	3	1.1
脳外	14	5.2
産婦人科	14	5.2
精神	3	1.1
歯科	8	3.0
その他	67	25.1

表3 勤務形態

	n	%
専任	219	94.4
兼任	10	4.3
その他	3	1.3

表4 1週間の労働時間

	n	%
40時間以下	8	3.1
41時間以上45時間以下	16	6.2
46時間以上50時間以下	35	13.6
51時間以上55時間以下	35	13.6
56時間以上60時間以下	70	27.1
61時間以上	94	36.4

表5 勤務体制

	n	平均	SD
オンコール出勤回数/週	241	1.6	1.6
宿直回/月	249	2.2	1.9
日直回/月	231	0.9	0.9

表6 休日

	n	%
8日以上	9	3.5
6日以上8日未満	33	12.8
4日以上6日未満	70	27.1
2日以上4日未満	73	28.3
1日	11	4.3
全くないときもある	62	24.0

表7 家族状況

	n	%	
婚姻			
既婚	196	74.5	
独身	67	25.5	
子どもの有無			
あり	155	65.7	
なし	81	34.3	
世帯形態			
単身	60	24.4	
家族と同居	173	70.3	
家族と別居	13	5.3	
	n	平均	SD
子ども人数	236	1.4	1.2
年少子ども年齢	137	9.5	8.9
年長子ども年齢	115	14.5	9.1

表8 年収

	n	%
500万円未満	22	8.7
500以上800万円未満	42	16.6
800以上1000万円未満	36	14.2
1000以上1300万円未満	59	23.3
1300以上1500万円未満	38	15.0
1500以上2000万円未満	49	19.4
2000万円以上	7	2.8

表9 学生でのへき地医療経験(複数)

	n	%
へき地医療の授業があった	7	2.6
へき地医療の実習があった	20	7.5
課外活動でへき地に行った	16	6.0
その他	7	2.6

表10 学生のへき地経験で関心もてたか

	n	%
持てた	20	57.1
持てなかった	15	42.9

表11 へき地勤務の有無

	n	%
あり	34	12.9
なし	229	87.1

表12 へき地勤務でへき地医療に関心もてたか

	n	%
持てた	17	47.2
持てなかった	19	52.8

表13 へき地勤務内容 n=267

	n	%
へき地診療所勤務	13	4.9
へき地診療所の代診医	25	9.4
臨床研修	5	1.9
研究活動	1	0.4
その他	5	1.9

表14 へき地勤務上の不都合(複数) n=267

	n	%
勤務場所への移動	17	6.4
医師としてのキャリアアップ	16	6.0
時間外診療	13	4.9
診療所の管理・運営	6	2.2
地域住民との関係	4	1.5
子どもの教育	2	0.7
家族の介護	3	1.1
その他	0	0.0

表15 へき地診療所勤務のメリット(複数) n=267

	n	%
やりがいがある	59	22.1
働きやすい	21	7.9
自然環境がよい	97	36.3
報酬が良い	79	29.6
メリットはない	71	26.6
その他	24	9.0

表16 へき地診療所勤務の障害(複数) n=267

	n	%
通勤	128	47.9
家族の介護	43	16.1
子どもの養育	141	52.8
生活の不便さ	174	65.2
医師としてのキャリアアップに関する事	127	47.6
総合的な臨床医としての能力不足	155	58.1
その他	29	10.9

表17 へき地診療所勤務の最大障害

	n	%
通勤	12	6.6
家族の介護	8	4.4
子どもの養育	42	23.2
生活の不便さ	36	19.9
医師としてのキャリアアップに関する事	27	14.9
総合的な臨床医としての能力不足	45	24.9
その他	11	6.1

表18 へき地診療所勤務の条件(複数) n=267

	n	%
生活環境の向上	128	47.9
子どもの教育の充実	101	37.8
診療支援体制強化	179	67.0
医師としての研修の充実	138	51.7
報酬	152	56.9
地域医療支援機構の協力	125	46.8
地域住民の理解と協力	106	39.7
地元行政の協力	139	52.1
最新医療機器の整備	62	23.2
後任がすぐに見つかること	104	39.0
その他	32	12.0

表19 へき地診療所勤務の最大条件

	n	%
生活環境の向上	13	7.0
子どもの教育の充実	19	10.2
診療支援体制強化	50	26.7
医師としての研修の充実	19	10.2
報酬	24	12.8
地域医療支援機構の協力	5	2.7
地域住民の理解と協力	7	3.7
地元行政の協力	24	12.8
最新医療機器の整備	3	1.6
後任がすぐに見つかること	15	8.0
その他	8	4.3

表20 へき地勤務の期間設定すべきか

	n	%
思う	180	71.4
そう思わない	56	22.2
その他	16	6.3

表21 設定期間

	n	%
1年未満	32	16.8
1年以上3年未満	128	67.4
3年以上5年未満	19	10.0
5年以上	2	1.1
その他	9	4.7

表22 へき地診療所との情報交換手段(複数) n=267

	n	%
電話	178	66.7
FAX	117	43.8
電子メール	67	25.1
画像転送	14	5.2
テレビ会議	0	0.0
その他	37	13.9

表23 へき地医療における遠隔医療活用の意義(複数) n=267

	n	%
病理組織等の静止画像診断可能	186	69.7
血管造影等の動画診断可能	67	25.1
テレビ電話による診断、治療が可能	96	36.0
電子メール利用した症例検討、相談可能	160	59.9
他院の電子カルテの閲覧等可能	129	48.3
その他	10	3.7

表24 初期臨床研修でへき地医療を担う臨床医養成が可能か

	n	%
十分可能	3	1.1
まあまあ可能	44	16.5
可能	40	15.0
現状では難しい	113	42.5
不可能	66	24.8

表25 後方医療機関の医師として担っている役割単位:件

	頻繁	時々	稀	ない
診療に係る情報交換	37	108	56	32
遠隔医療を用いての連携	7	31	38	146
救急患者の受け入れ	93	90	32	23
後方医療機関としての患者の受け入れ	82	81	42	30
地域への患者の紹介	54	113	44	24
その他	2	1	0	2

表26 へき地医療の医師確保に必要なこと(複数) n=267

	n	%
学生時代のへき地医療学習機会の増加	67	25.1
卒後臨床研修のへき地医療の義務化	66	24.7
へき地医療に対応できる人材育成研修	131	49.1
大学医局派遣	124	46.4
報酬等の待遇	139	52.1
その他	36	13.5

表27 山形県地域医療支援機構を知っているか

	n	%
知っている	62	23.3
知らない	204	76.7

表28 在宅医療を行っているか

	n	%
行っている	7	2.8
行っていない	246	97.2

看護学生調査

表1 対象者の属性

	n	平均±SD
年齢(歳)	170	20.9±1.6
職歴年	3	2.3±0.6
	n	%
性別		
女	163	95.9
男	7	4.1
学年		
1年	50	29.4
2年	26	15.3
3年	30	17.6
4年	64	37.6
免許(複数回答)		
看護師	12	
准看護師	3	
看護職としての職歴経験		
なし	157	98.1
あり	3	1.9

表2 将来どのような方向に進みたいと考えているか

	n	%
病院などで働く臨床看護	70	42.4
看護スペシャリスト	24	14.5
公衆衛生看護	17	10.3
学校看護	14	8.5
助産	9	5.5
ジェネラリスト	8	4.8
その他	6	3.6
訪問看護	5	3.0
大学や短大等の看護教員	5	3.0
看護職以外	4	2.4
産業看護	2	1.2
病院の看護管理者	1	0.6

表3 就職先を決めるために重視すること(複数回答)

	n=170	
	n	%
生活環境	133	78.2
報酬	101	59.4
看護職としての教育体制	99	58.2
結婚育児	90	52.9
専門的医療看護の経験	59	34.7
安定した身分	54	31.8
レジャーの確保	27	15.9
その他	7	4.1

表4 就職先を決めるために最も重視すること

	n	%
看護職としての教育体制	42	34.4
生活環境	35	28.7
結婚育児	16	13.1
専門的医療看護の経験	12	9.8
安定した身分	9	7.4
報酬	5	4.1
その他	3	2.5

表5 看護の仕事についての現在の気持ち

	n	%
働いてから考える	52	31.3
結婚・育児期にやめ、復職	34	20.5
最初の就職先で長く勤めたい	29	17.5
国際的な活動をしたい	12	7.2
次の就職先で長く勤めたい	10	6.0
結婚したらやめたい	8	4.8
医療保健のさまざまな施設で働きたい	7	4.2
看護以外の職種経験したい	5	3.0
その他	5	3.0
考えていない	4	2.4

表6 へき地で働く意思

	n	%
ある	42	25.5
ない	49	29.7
わからない	74	44.8

表7 へき地医療で働く意思ある理由(複数回答)

	n=42	
	n	%
地域密着看護ができる	31	73.8
やりがいがある	23	54.8
故郷	18	42.9
自然環境がよい	16	38.1
自己成長できる	15	35.7
貢献したい	13	31.0
地域差は就職の決定要因ではな	11	26.2
領域によっては質高い看護できる	8	19.0
働きやすい	7	16.7
その他	3	7.1

表8 へき地医療で働く意思ある最大理由

	n	%
故郷	10	33.3
地域密着看護ができる	8	26.7
やりがいがある	5	16.7
その他	3	10.0
自己成長できる	2	6.7
自然環境がよい	1	3.3
貢献したい	1	3.3

表9 へき地医療働く意思ない理由(複数回答)

	n=49	
	n	%
生活が不便	42	85.7
へき地生活経験ないので	16	32.7
看護が遅れている	14	28.6
へき地病院を知らない	11	22.4
教育体制が整っていない	10	20.4
文化的環境が整っていない	9	18.4
給与等の待遇が悪い	9	18.4
院外研修に行きにくい	5	10.2
その他	3	6.1

表10 へき地医療働く意思ない最大理由

	n	%
生活が不便	18	52.9
へき地生活経験ないので	4	11.8
看護が遅れている	4	11.8
教育体制が整っていない	4	11.8
文化的環境が整っていない	2	5.9
へき地病院を知らない	1	2.9
その他	1	2.9

表11 へき地に就職する条件(複数回答 n=170)

	n	%
都会へのアクセスがよい	29	17.1
通勤の便がよい	27	15.9
職場の雰囲気がよい	24	14.1
自分の目指す看護できる	21	12.4
給与などの待遇がよい	21	12.4
看護の知識技術の習得	19	11.2
施設設備が整っている	18	10.6
医療看護の水準高い	15	8.8
宿舍が整っている	13	7.6
休暇がとりやすい	13	7.6
院内の教育体制が整っている	11	6.5
看護管理者の理念	9	5.3
近くに娯楽施設文化施設ある	6	3.5
長期院外研修制度がある	2	1.2
その他	1	0.6

表12 へき地に就職する最大条件

	n	%
自分の目指す看護できる	8	25.0
看護の知識技術の習得	4	12.5
通勤の便がよい	4	12.5
施設設備が整っている	3	9.4
職場の雰囲気がよい	3	9.4
都会へのアクセスがよい	3	9.4
医療看護の水準高い	2	6.3
給与などの待遇がよい	2	6.3
看護管理者の理念	1	3.1
宿舍が整っている	1	3.1
その他	1	3.1

表13 その他:将来どのような方向に進みたいと考えているか

保健師(2名)
 スペシャリスト、訪問看護、看護教員で悩み中である
 何年か経験を積んで大学院へ進学
 未定

海外支援

表14 その他:就職先を決めるために重視すること

福利厚生、職場の雰囲気
 より患者様の身近にいて密接にかかわれること
 自分のやりたいことがやれるところ
 新卒の際は教育体制、その後仕事に慣れてきたら
 安心して結婚育児できること
 とができる。または、海外で看護活動が可能な制度
 がある。

病院などの設備、施設の充実

表15 その他:看護の仕事についての現在の気持ち

最初の就職先で長く勤めたいと第一に考えている
 が、結婚・出産の事も考慮したい
 保健分野で働きたい
 地元に戻りたい

自分の力を生かせるような職場につとめていたい

表16 その他:へき地医療で働く意思ある理由

自分の家庭の経済状況に支障がなければ報酬は気にしないで、純粋に医療を提供したい。
 人との関わりや人の和を広げ、より大切にすることが
 できると思う

必要とされている気がしてやりがいがある
 人がいる限り医療が不要なところはないと思っているから
 お給料が良さそう

表17 その他:へき地医療働く意思ない理由

将来の展望とあわない
 もし、何かあった時、何もできない、助けられない、大きい病院が近くにあつたら助かったはずなのに患者がなくなれたと言うような状況に精神的に耐えられそうにない
 実践や応用力がより試されると思う。経験をつんだら働いても良いと思う
 地方では、外から来た人をよそ者扱いをする。子供の学校が遠くなりそう。だんなさんの仕事がなさそう

表18 その他:へき地に就職する条件

ヘリポートがあり、救急車と同じレベルで大病などに搬送できる状況ができています

表19 へき地で働く意思に影響する就職で重視する要因

	へき地働く意思		p値
	なし	あり	
重視教育	なし 56(83.6)	あり 11(16.4)	0.008
重視レジャー	なし 85(68.0)	あり 40(32.0)	0.014
	なし 23(92.0)	あり 2(8.0)	

χ^2 検定、Fisherの直接確率法 ()内は%

表20 へき地で働く意思に影響する仕事に対する現在の意見

	へき地で働く意思		p値
	なし	あり	
看護職として働いてから考える	なし 69(67.0)	あり 34(33.0)	0.043
	なし 39(83.0)	あり 8(17.0)	

χ^2 検定 ()内は%

表21 へき地医療に関する意見

n=31

大変そう、責任が重そう、というイメージがあります。でも、やりがいはあると思います。

実際にへき地と呼ばれる場所での実習や住んだ事がない為、テレビ等のイメージはあるものの、実際に自分の目で見てから考えるとと思います。

へき地医療に関する知識が、テレビ特番で報道される程度しかないので、現時点では何とも言えない。医療設備がどの程度整っているのか等の実態を知る機会がほしい。

へき地医療と言うとどうしても都市部とは隔絶された環境を考えてしまう。そのようなイメージや現実が改善されれば、へき地医療への抵抗は軽減するものと考えます。

へき地であっても、市町村営バスなどを運行して、交通の便を良くしたり、訪看であったり、緊急時のネットワーク整備に努めたりして、環境を整備していくことが大切だと思う。へき地に必ず医者を配置しなければならないわけではなく、ネットワーク次第で良い対応もできるよ

重要なことだと思いますので頑張ってください。

ある程度設備が整い、自分の考えに合致する人が集まって理想の看護が提供できるのであれば、へき地であろうと働きたいと思う。マスメディアを活用し広く一般に現状を伝える必要があるのではないだろうか。

看護職として、これから働いてみて、自分の求める看護を行いたいと思う。その選択肢として、へき地医療も十分あり得る。しかし、卒後すぐにへき地で働くことは、研修制度の面から見て不安になることも多いので、考えられなかった。

へき地医療には興味があり、やってみたいという気もありますが、1人の看護婦の負担や責任が大きいようなイメージがあります。

へき地であっても、基礎的な疾患の看護(内科、外科、小児科、産科)は全て対応できるようであってほしい。(設備がないから手術はできないはやめてほしい)

結婚などで転勤の多い人とのものだと、なるべく看護部で安定して勤務していきたい。ただ、病院の都合で必要があるのなら(へき地等の勤務)仕方がないと思う。また、家族の介護で、実家のある都市部にいたいと思う。

やりたくない。

どこに住んでも安心して暮らせるように、どんな場所においても医療体制などは充実させるべき。

実際のへき地医療について知識がないので、働く意思については、今は考えられません。

へき地医療は、具体的にどのようなメリットがあり、デメリットがあるのか見えにくいと思う。学校でも教育の中に取り上げれば良いと思う。

へき地医療は必要だと思うが、あまり身近ではない為よく分からない。

もし自分がへき地に努めたら、やりがいはあるだろうと思うが、自分1人で頑張らなくてはいけない状況だと自分がつぶれてしまいそうで、自ら行く気にはなれない。

対象者の名前を呼んであいさつできる環境なら、何でも話し合えて本当に必要な看護ケアが行える気がします。

とくになし

その土地の和にうまくとけこめるか不安はありますが、へき地医療に関わる前にしっかりと技術を身につけていればきっと充実した医療を提供できると思います。

相応のメリットが必要だと思う。

へき地で働くということがイメージできない。具体的にどんなことをするのか分からない。

物品確保の為、流通が発達したところなら働けるかもしれない。

具体的なことがよくわからないので、どうなのかよくわからない。

へき地医療の現状を知らないで、何が問題なのか自分がどう関わることができるのか分からない。貢献したいというカッコいい面だけじゃなくて、実際はどんなに大変なのかを知りたい気持ちもある。

へき地医療に興味はあるが、結婚などを考えると・・・

へき地での看護にすごく興味はあるが、やるのであれば、やはりある程度の臨床での経験は必要であると考え。しかしその分すごくやりがいもある分野であると思う。

へき地医療の良さのPRが必要だと思う。

へき地で看護職として働きたくない訳ではないが、病院等の施設のことなど、へき地に関して知らない事が多すぎるから。看護師や医者的人数が少ないのは良くない

へき地の方が高齢者が多いのもっと力を入れるべき。

Ⅲ. 参考資料

① 「山形県内医療施設における患者動向 及び医療従事者に係る現状調査」報告

2005 年

「生涯教育と地域医療」増刊号1

目 次

ページ

I 調査の概要	1~2
1 調査の目的 2 調査主体 3 調査対象 4 調査期間 5 調査回答数	
6 調査票及び調査項目 7 調査票集計及びデータ分析等担当	
8 数値表記の定義 / 報告書におけるデータ取り扱い上の留意点	
II 調査結果について	
1 診療圏について	2
2 職種別職員数について	3
3 医師・歯科医師について	10
4 患者数について	36
5 病床数等について	63
6 手術件数について	68
7 患者紹介率について	75
8 施設基準の状況	77
9 医療機器の設置状況及び稼動実績	79
10 各指定施設及び各学会認定施設	105

<調査票様式等>

- 調査依頼文
- 調査票様式

山形県内医療施設における患者動向 及び医療従事者等に係る現状調査結果報告

I 調査の概要

1 調査の目的

山形県内全域の医療機関における患者数、病床利用率、職員数、手術数、医療機器の設置状況、不足医師数等を地域別に把握し、医師等マンパワー及び医療機器等の医療資源などの現状分析に係る基礎データを収集し、今後の地域における医療提供体制等の具体的な検討の資料に資する。

2 調査主体 山形県及び山形大学蔵王協議会

3 調査対象 一般病床を有する山形県内の全医療施設：51 施設

4 調査期間 平成 17 年 1 月 24 日～2 月 25 日

5 調査回答数 51 医療施設のうち 45 施設（回答率 88.2%）

<回答施設の内訳（地域別・病院種別）>

	国 立	公立・公的	自治体	私 的	合 計
村山地域	2	3	8	8	21
最上地域	-	-	4	-	4
置賜地域	1	3	4	1	9
庄内地域	-	-	4	7	8
合 計	3	6	20	16	45

※ 「国立」：独立行政法人国立病院機構病院及び大学病院

「公立・公的」：一部事務組合立病院、共済組合病院及び医療法第 31 条に規定する公的医療機関

「自治体」：県立及び市町立病院

「私的」：医療法人等の私的病院

6 調査票及び調査項目

別添のとおり

7 調査票回収、個票集計及び集計データ分析等担当

山形大学医学部及び山形大学大学院医学系研究科

8 数値表記の定義

「0 (0.0)」：単位未満の値

「-」または「空欄」：該当数値なし

報告書におけるデータ取り扱い上の留意事項

- 医療法に基づく標榜科目の関係により、例えば、データ上「循環器科」の医師及び患者数がゼロであっても、実際は「内科」の医師が循環器系疾患患者の診療に当たっている医療施設があるなど、医師に係る診療科別データの取り扱いには十分留意してください。
- 「医師一人当たり」に関するデータについては、非常勤医師を除く常勤医師のみを母数としています。
- 手術件数において、電算システム上の取り扱い等により「主たる手術及び従たる手術を各1件」もしくは「主たる手術及び従たる手術で計1件」と医療施設によりその計上の方法が異なる場合がありますが、本報告書では各医療施設から提出された手術件数をそのまま集計しています。

II 調査結果について

1 診療圏について

(1) 診療圏範囲

各医療施設が「自施設の診療対象エリア」と捉えている診療圏カバー率(※)を地域別に見ると、置賜地域及び庄内地域では自医療圏のカバー率が100.0%、最上地域では同88.9%と高い比率となっている。

一方、村山地域では、自医療圏を6割以上(61.6%)カバーしているものの、最上地域を11.1%、置賜地域を13.8%、庄内地域を13.5%とそれぞれカバーしており、大学病院及び県基幹病院等広域医療施設の存在により、他3地域をそれぞれ10%以上カバーしていることが特徴である。

※地域別診療圏カバー率＝各医療施設が自らの診療圏とした市町村数の当該地域計／Σ診療圏対象市町村数

表1-(1) 診療圏カバー率(地域別)

(単位:%)

		診療圏対象地域				
		村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
二次医療圏 医療施設の属する	村山地域	61.6	11.1	13.8	13.5	100.0
	最上地域	11.1	88.9			100.0
	置賜地域			100.0		100.0
	庄内地域				100.0	100.0

(2) 診療圏内最遠距離及び所要時間

地域別の医療圏における各医療施設から最遠地区までの距離は、村山地域が平均52.11 km(最大134 km、最小7 km)、最上地域が同29.95 km(最大37 km、最小16 km)、置賜地域が同37.57 km(最大80 km、最小18 km)、庄内地域が同29.68 km(最大45 km、最小4 km)であった。全体平均は、同41.78 kmであった。

また、各医療施設から最遠地区までの所要時間については、村山地域が平均約1時間27分(最長6時間10分、最短20分)、最上地域が平均約38分(最長50分、最短20分)、置賜地域が平均約1時間8分(最長3時間、最短30分)、庄内地域が平均約48分

(最長1時間10分、最短20分)であった。

(1)の診療圏範囲を反映し、村山地域では最遠地区までの平均距離及び所要時間ともに最も長くなっている。

表1-(2) 各医療圏における最遠地区までの距離及び所要時間

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	合計
<距離>					
回答施設数	18	4	7	9	38
平均	52.11	29.95	37.57	29.68	41.78
最大	134	37	80	45	
最小	7	16	18	4	
<所要時間>					
回答施設数	18	4	7	10	39
平均	1:27:13	0:38:45	1:08:34	0:48:00	1:08:51
最大	6:10:00	0:50:00	3:00:00	1:10:00	
最小	0:20:00	0:20:00	0:30:00	0:20:00	

2 職種別職員数について

(1) 職種別構成割合

全体

看護師が全体の45.3%と最も構成比率が高く、准看護師及び看護助手を含む看護職全体では56.7%と半分以上を占めている。次いで医師が10.4%、事務職9.1%、臨床検査技師3.8%、調理師3.0%、助産師、薬剤師、診療放射線技師、現業労務職等が2%台となっている。

地域ごとの特徴

- ・ 医師：村山地域が12.3%と最も高く、次いで置賜地域が8.9%、庄内地域が8.0%、最上地域が7.7%となっており、村山地域と最上地域の差は4.6ポイントとなっている。
- ・ 看護師：最上地域が48.2%で、村山地域45.3%、置賜地域45.2%、庄内地域44.7%に比べ地域別では最も高くなっている。
- ・ 事務職：庄内地域が9.7%で、村山地域9.1%、置賜地域8.7%、最上地域7.6%を上回り最も高くなっている。
- ・ 臨床工学技士：庄内地域が0.7%と最も高く、村山地域及び置賜地域0.5%となっているが、最上地域はゼロで配置されていない。
- ・ 理学療法士：村山地域が1.3%と最も高く、最上地域及び置賜地域1.0%、庄内地域0.9%を上回っている。
- ・ 調理師：置賜地域が3.7%と最も高く、最上地域3.2%、庄内地域3.1%、村山地

域 2.8%を上回っている。

- ・ その他の職種では地域による大きな差異は見られなかった。

表 2- (1) 職員構成割合 (地域別・職種別)

	村山地域		最上地域		置賜地域		庄内地域		合計	
	回答施設数	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
管理職(再掲)	217	3.5%	23	2.9%	63	3.1%	76	2.6%	379	3.2%
医師	756	12.3%	61	7.7%	183	8.9%	237	8.0%	1,237	10.4%
歯科医師	28	0.5%	-	-	3	0.1%	5	0.2%	36	0.3%
看護師	2,774	45.3%	382	48.2%	933	45.2%	1319	44.7%	5,407	45.3%
准看護師	253	4.1%	49	6.2%	174	8.4%	261	8.8%	737	6.2%
看護助手	349	5.7%	28	3.5%	119	5.7%	125	4.2%	621	5.2%
助産師	131	2.1%	22	2.8%	44	2.1%	49	1.7%	246	2.1%
診療放射線技師	144	2.3%	19	2.4%	46	2.2%	62	2.1%	271	2.3%
診療X線技師	3	0.0%	-	-	5	0.2%	-	-	8	0.1%
薬剤師	148	2.4%	22	2.8%	49	2.4%	74	2.5%	293	2.5%
臨床検査技師	228	3.7%	28	3.5%	77	3.7%	121	4.1%	454	3.8%
衛生検査技師	4	0.1%	-	-	-	-	-	-	4	0.0%
臨床工学技士	33	0.5%	-	-	11	0.5%	22	0.7%	66	0.6%
理学療法士	82	1.3%	8	1.0%	20	1.0%	26	0.9%	136	1.1%
作業療法士	45	0.7%	2	0.3%	11	0.5%	13	0.4%	71	0.6%
言語聴覚士	18	0.3%	-	-	2	0.1%	5	0.2%	25	0.2%
あん摩マッサージ指圧師	11	0.2%	2	0.3%	6	0.3%	6	0.2%	25	0.2%
視能訓練士	10	0.2%	-	-	3	0.1%	3	0.1%	16	0.1%
歯科衛生士	17	0.3%	-	-	1	0.0%	3	0.1%	21	0.2%
歯科技工士	6	0.1%	-	-	1	0.0%	1	0.0%	8	0.1%
診療情報管理士	7	0.1%	-	-	1	0.0%	4	0.1%	12	0.1%
管理栄養士	47	0.8%	3	0.4%	19	0.9%	29	1.0%	98	0.8%
栄養士	7	0.1%	6	0.8%	8	0.4%	6	0.2%	27	0.2%
調理師	171	2.8%	25	3.2%	77	3.7%	90	3.1%	363	3.0%
医療社会事業従事者	29	0.5%	-	-	7	0.3%	9	0.3%	45	0.4%
医療社会事業従事者 (MSW 再掲)	17	0.3%	-	-	6	0.3%	9	0.3%	32	0.3%
事務職	560	9.1%	60	7.6%	180	8.7%	285	9.7%	1,085	9.1%
現業労務職	150	2.4%	59	7.4%	55	2.7%	63	2.1%	327	2.7%
その他(※)	105	1.7%	16	2.0%	29	1.4%	132	4.5%	282	2.4%
地域医療連携部門 (再掲)	31	0.5%	3	0.4%	14	0.7%	11	0.4%	59	0.5%
合計	6,128	100.0%	792	100.0%	2,062	100.0%	2,950	100.0%	11,932	100.0%

(注)「割合」は、各項目の数値を、「合計」の数値で除したものを。

(2) 100床当たり職員数比較(地域別)

全体

全体では、最上地域が123.8人で最も多く、次いで村山地域が121.1人、庄内地域117.8人、置賜地域115.9人となっている。

地域別・職種別

- ① 医師：村山地域が14.9人と最も多く、置賜地域10.3人、最上地域及び庄内地域ともに9.5人に比べ大幅に上回っている。
- ② 看護職
看護職全体では、最上地域が71.7人と最も多く、次いで置賜地域68.9人、庄内地域68.1人、村山地域66.7人となっている。
ア 看護師：最上地域が59.7人と最も多く、村山地域54.8人、庄内地域52.7人、置賜地域52.4人となっている。
イ 准看護師：庄内地域が10.4人と最も多く、次いで置賜地域が9.8人、最上地域7.7人、村山地域5.0人で、庄内地域と村山地域の差は2倍以上となっている。
ウ 看護助手：村山地域が6.9人と最も多く、次いで置賜地域6.7人、庄内地域5.0人、最上地域4.4人となっている。
- ③ 診療放射線技師：最上地域が3.0人、村山地域2.8人、置賜地域2.6人、庄内地域2.5人となっている。
- ④ 薬剤師：最上地域が3.4人で最も高く、庄内地域が3.0人、村山地域2.9人、置賜地域が2.8人となっている。
- ⑤ 臨床検査技師：庄内地域が4.8人と最も高く、村山地域4.5人、最上地域4.4人、置賜地域4.3人となっている。
- ⑥ 管理栄養士：庄内地域が1.2人、置賜地域1.1人、村山地域0.9人とほとんど差がないものの、最上地域は0.5人と他地域のほぼ2分の1の配置となっている。
- ⑦ 栄養士：最上が0.9人と最も高く、置賜地域0.4人、庄内地域0.2人、村山地域0.1人となっている。管理栄養士及び栄養士の比率を見ると、最上地域は栄養士の割合が高い。
- ⑧ 事務職：庄内地域が11.4人と最も高く、村山地域11.1人、置賜地域10.1人、最上地域9.4人となっている。
- ⑨ 地域医療連携部門(再掲)：置賜地域が0.8人、村山地域0.6人、最上地域0.5人、庄内地域が0.4人となっている。

表2-(2)-1 病床100床当たり職員数(地域別・職種別)

	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	全体
管理職(再掲)	4.3	3.6	3.5	3.0	3.8
医師	14.9	9.5	10.3	9.5	12.4
歯科医師	0.6	-	0.2	0.2	0.4

看護師	54.8	59.7	52.4	52.7	54.2
准看護師	5.0	7.7	9.8	10.4	7.4
看護助手	6.9	4.4	6.7	5.0	6.2
助産師	2.6	3.4	2.5	2.0	2.5
診療放射線技師	2.8	3.0	2.6	2.5	2.7
診療X線技師	0.1	-	0.3	-	0.1
薬剤師	2.9	3.4	2.8	3.0	2.9
臨床検査技師	4.5	4.4	4.3	4.8	4.5
衛生検査技師	0.1	-	-	-	0.0
臨床工学技士	0.7	-	0.6	0.9	0.7
理学療法士	1.6	1.3	1.1	1.0	1.4
作業療法士	0.9	0.3	0.6	0.5	0.7
言語聴覚士	0.4	-	0.1	0.2	0.3
あん摩マッサージ指圧師	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3
視能訓練士	0.2	-	0.2	0.1	0.2
歯科衛生士	0.3	-	0.1	0.1	0.2
歯科技工士	0.1	-	0.1	0.0	0.1
診療情報管理士	0.1	-	0.1	0.2	0.1
管理栄養士	0.9	0.5	1.1	1.2	1.0
栄養士	0.1	0.9	0.4	0.2	0.3
調理師	3.4	3.9	4.3	3.6	3.6
医療社会事業従事者	0.6	-	0.4	0.4	0.5
同上(MSW再掲)	0.3	-	0.3	0.4	0.3
事務職	11.1	9.4	10.1	11.4	10.9
現業労務職	3.0	9.2	3.1	2.5	3.3
その他(※)	2.1	2.5	1.6	5.3	2.8
地域医療連携部門(再掲)	0.6	0.5	0.8	0.4	0.6
合計	121.1	123.8	115.9	117.8	119.5

看護職(再掲)	66.7	71.7	68.9	68.1	67.8
---------	------	------	------	------	------

病床数計	5,059	640	1,779	2,504	9,982
------	-------	-----	-------	-------	-------

病院種別・職種別

① 医師：国立が26.5人と最も多く、自治体12.2人、公立・公的病院11.5人の2倍超となっている。私的是6.6人と最も少ない。

② 看護職

全体では、自治体が74.9人と最も多く、次いで公立・公的が68.4人、私的が59.9人、国立が54.3人となっている。自治体と国立との差は20.6人にのぼり、本県にお

ける自治体病院の看護職員配置の相対的な厚さがうかがえる。

- ア 看護師：自治体が65.1人と最も多く、次いで公立・公的が56.1人に対し、国立が49.2人、私的が33.6人で、自治体と私的の差は31.5人と大きな格差が見られる。
- イ 准看護師：私的が15.5人と際立って多く、公立・公的6.5人、自治体4.6人、国立3.4人と看護師とは逆の配置水準となっている。
- ウ 看護助手：私的が10.7人と最も多く、公立・公的が5.8人、自治体が5.2人と続き、国立は1.8人と極めて少ない。
- ③ 診療放射線技師：公立・公的が3.0人と最も多く、次いで自治体2.8人、私的2.6人、国立2.0人であり、公立・公的と国立との差は1.5倍となっている。
- ④ 薬剤師：公立・公的が3.4人と最も多く、次いで自治体3.1人、私的2.6人、国立2.2人となっている。
- ⑤ 臨床検査技師：自治体及び私的が4.9人と最も多く、次いで公立・公的4.4人、国立が2.8人となっている。
- ⑥ 管理栄養士：私的が1.3人と最も多く、次いで公立・公的及び自治体ともに0.9人、国立0.7人となっている。
- ⑦ 栄養士：国立、自治体及び私的がともに0.3人に対し、公立・公的は0.0人で管理栄養士の配置に比重を置いていることがうかがえる。
- ⑧ 事務職：私的が14.3人で最も多く、次いで公立・公的10.6人、国立9.6人、自治体9.5人となっている。
- ⑨ 地域医療連携部門（再掲）：国立が0.8人と最も多く、公立・公的0.7人、自治体及び私的がともに0.5人となっている。

表2- (2) -2 病床100床当たり職員数（病院種別・職種別）

	国立	公立・公的	自治体	私的	全体
管理職(再掲)	1.4	4.7	2.9	6.0	3.8
医師	26.5	11.5	12.2	6.6	12.4
歯科医師	1.5	0.2	0.2	0.2	0.4
看護師	49.2	56.1	65.1	33.6	54.2
准看護師	3.4	6.5	4.6	15.5	7.4
看護助手	1.8	5.8	5.2	10.7	6.2
助産師	0.6	4.0	3.2	0.6	2.5
診療放射線技師	2.0	3.0	2.8	2.6	2.7
診療X線技師	-	0.3	-	-	0.1
薬剤師	2.2	3.4	3.1	2.6	2.9
臨床検査技師	2.8	4.4	4.9	4.9	4.5
衛生検査技師	0.1	-	-	-	0.0
臨床工学技師	0.3	0.7	0.3	1.6	0.7
理学療法士	0.8	1.8	1.1	1.9	1.4